

エゾシカカフェ店主敬白

VOL.58 2011/9/30

こんにちは、エゾシカカフェ店主の石崎です。

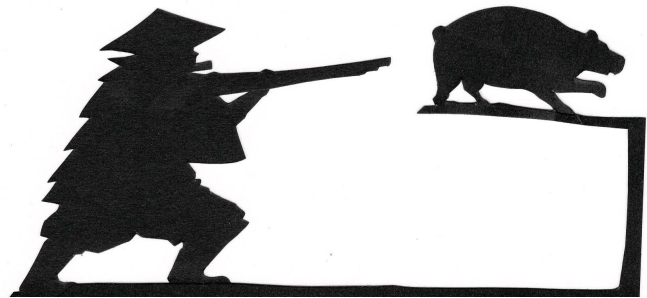
エゾシカカフェは、そのまま名前の通り、エゾシカ料理をご提供するカフェですが、本当のコンセプトは、「エゾシカ好きのオーラをあてて、エゾシカ大好きにさせる」ことにあります。

店主敬白も、皆さんにエゾシカのことをもっと知ってもらい、しかも大好きになってもらうためのものです。肩肘張らず、軽い気持ちで読んでみるしかない？

狩猟文化って日本にない？

9月も今日で最終日、10月からは北海道で狩猟シーズンが始まります。実は、狩猟シーズンに入る前って、ドキドキワクワクしませんか？（マニアック？）

日本人でこの時期ドキドキワクワクする人は少ないのですが、ヨーロッパの方々は結構共感してくれるこの感覚、本当に日本人にない感覚なんじゃないでしょうか？



邂逅の森、読んだ？

熊谷達也さんが書いた「邂逅の森」という小説があります（2004年に単行本出版）。「大正から昭和初期にかけて、秋田県阿仁町打当に生まれたマタギ・松橋富治の波乱の人生を描く。自然に対する畏敬の念をテーマとしている（by wiki 先生）。」なんですが、中身はちょっと野性的な性のハナシもあふれています（まあ、性も自然に対する畏敬の念だよな。）。

いや、ここで言いたいのは、性のハナシではなく、日本が持っていたマタギ文化にぐっと、惹きつけられるハナシなんで、ぜひ皆様にも読んでいただきたいところですが、読み終わってから、自然への畏敬の念・・・ではなく、少し別の解釈もしています。

主人公の富治は、山や猟や鳥獣が本当に好きなんですわ。生活の一部になっているのはもちろんですが、山と自分が常にセットなんです。途中途中に、畏敬の念とともに、それを楽しんでドキドキワクワクしている感じがとても伝わってきます。

小説の時期は、約100年前、それほど昔の話でもありません。こっちの爺さんの世代です（はい、店主33歳です）。

なんだ、たった100年前は日本でも、狩猟解禁をドキドキワクワクしてるんだ！と勇気付けられる小説です。ぜひ、皆さまも読んでみてください！



漫画化もされたそうです。
（チャンピオンで連載）